

## 平成20年度1回京都大学防災研究所自然災害研究協議会 議事録

日 時：平成20年5月15日(木) 13:30 - 16:30

場 所：京都大学宇治研究所本館5階 水資源演習室(D-1510)

出席者：吉田真吾(代理：勝俣 啓), 岡田憲夫, 加賀屋誠一, 海野徳仁, 矢田部龍一, 善 功  
企(代理：陳 光斉), 間瀬 肇, 盛川 仁, 西上欽也, 中田節也(代理：勝俣 啓),  
藤吉康志, 牧 紀男,

オブザーバー出席：石原和弘(防災研究所長), 渡邊 淳(代理：宮川康平 文科省防災科学技  
術推進室室長補佐)

欠席者：丸井 英明, 飯塚 敦, 桑野二郎, 水谷法美, 藤田正治, 真木雅之

オブザーバー欠席：鏡味洋史, 井口 隆

議事に先立ち, 岡田憲夫議長, 石原和弘京大防災研所長および宮川康平文科省防災科学技術推進  
室長補佐より挨拶があった。

- ・ 前回議事録の確認(資料1)  
間瀬総務より前回の議事録の説明があり, 承認された。
- ・ 出席者(代理)の確認(資料2)  
出席者の確認を行った。

### 議 事:

1. 委員の交代について(資料2)  
委員交代についての確認と出席者の自己紹介を行った。
2. 今年度の全体計画(資料3)
  - 2.1 間瀬総務より今年度の全体計画(案)の説明があった。
  - 2.2 SAIGAI 運営委員会会議が7月24日との記載があったが, 今年度はまだ決定されていない  
ので, 改めて自然災害科学総合シンポジウムとの日程とあわせて調整するとの報告が牧委員か  
らあった。
  - 2.3 「データベースを使った研究」と「防災研のデータベース」について同じものを指すのか  
との質問があった。岡田議長および間瀬総務から, 一般的なデータベースと防災研のデータベ  
ースと別のものであるとの説明があった。
3. 第45回自然災害科学総合シンポジウムの開催について(資料4)

3.1 資料4にもとづいて、間瀬総務から説明があった。

3.2 開催時期を11月か12月にしたいが、各学会の状況について調査を行い、開催日を決定することになった。

3.3 発表内容の具体案は、あくまで例であることが岡田議長から説明された。

3.4 「長期的・継続的な観測とフィールド調査・研究をベースとした持続的な災害評価と適応策の提案」の意味がわかりにくいとの指摘があった。これは個々(個別)の観測のことではなく、総合的に、長時間軸をもって検証していく観測・フィールドに基づいた研究が重要であることを示すための発表であることが議論された。

3.5 突発災害調査報告が明示されていないが、当然それを含めたシンポジウムであることが確認された。

3.6 突発災害は社会にアピールできる。突発災害調査をいかした防災研究の役割、戦略的に生かすというテーマも入れるのがよいことが議論された。

3.7 突発災害調査研究の重要性を発表できる候補者を数名いれることが提案された。

3.8 突発災害調査を第一部とし、今回提案の新しいテーマを第二部とした開催方法も考えられることが提案された。

3.9 従来は、突発災害調査報告があり、それに開催地区の災害報告・研究をプラスする形式であったが、今回は自然災害協議会のあり方を提案するシンポジウムとなっており、その趣旨に賛成するとの意見がでた。

3.10 WGを組織してシンポジウムを企画する。メンバーは間瀬総務と西上委員が相談して決め、岡田議長が依頼する。人数は、岡田、間瀬、西上以外に3名程度とする。

3.11 「地震予知・火山噴火予知の研究統合化と今後の防災戦略」の文言は削除する。

3.12 宮川オブザーバより、発表内容テーマ案は文科省が考えているおおよそのキーワードが含まれているとの報告があった。

#### 4. 突発災害調査研究について(資料5)

4.1 資料5に基づいて、平成19年度の計画調書が説明された。

4.2 中国四川省の地震とミャンマーの水害について、突発災害調査に関する現状が報告された。

#### 5. 地区部会からの報告および今年度の計画(資料6)

5.1 北海道地区部会(資料6-1): 加賀屋地区部会長より、防災フォーラム(3/11, 日本雪氷学会北海道支部との共催)、北海道地区自然災害科学資料センター報告 Vol.21 の刊行、平成20年度事業等について報告がなされた。

5.2 東北地区部会(資料6-2): 海野地区部会長より、3月6日以降の平成19年度の活動報告、および平成20年度の活動計画が報告された。文献データベース SAIGAI のデータ入力に関して謝金がないことをどう補ったら良いかの質問があった。これについては、6. のデータベース

のところで、ボランティアベースでお願いしていることが報告された。

5.3 関東地区(資料6-3): 勝保地区部会長代理より、平成19年度の活動報告および平成20年度の活動計画が報告された。

5.4 中部地区(資料6-4): 水谷地区部会長より送られた資料を確認した。

5.5 関西地区(資料6-5): 矢田部地区部会長より、平成19年度の活動報告および平成20年度の活動計画が報告された。出前講座について東北地区の実施方法、桜島での方法、国土地理院の出前教育メニューなど、長期的に活動できる仕組みが必要との意見が出された。

5.6 西部地区(資料6-6): 陳地区部会長代理より、平成19年度の活動報告および平成20年度の活動計画が報告された。

## 6. データベースについて(資料7)

6.1 牧委員より、自然災害データベース SAIGAI の登録件数、入力状況などについて報告がなされた。今年度は科研費が不採択になったが、これまではそのような場合、ボランティアでお願いしていた経緯があるとの報告があった。

6.2 地区単位で入力するためダブリがあるかの質問に、ダブリがあるが地区コードにより混乱はしないとの説明があった。

6.3 データベースをどう生かすか、共有・活用する仕組み、運営委員会の協議会内での役割について検討してほしいとの意見がでた。これらはWGで検討しなければならないことが、岡田議長から述べられた。

6.4 SAIGAI は誰のものかの質問がでた。SAIGAI は自然災害協議会の共有物であることが牧委員から説明された。

6.5 パンフレットの中に使用方法を示すのが良いとの意見があった。

## 7. 平成19年度決算報告(資料8)

間瀬総務から説明があり、承認された。その際、第3回協議会旅費を地区部会経費から捻出してもらっていることの報告がなされた。

## 8. 平成20年度予算案(資料9)

8.1 間瀬総務から3種類の予算案(これまで通り、協議会旅費を本部経費に計上して地区部会費を減らす、予算増額が認められた場合)が説明された。

8.2 地区部会経費は、活動を維持するためにこれまで通り分は必要であることが確認された。

8.3 石原防災研所長より、申請された全額の増額は認められないが、地区部会経費はこれまでどおりにするのが良いとの指摘があった。

## 9. その他(資料10)

9.1 自然災害データベース SAIGAI と人材データベースについての意見交換がなされた。活用方法については別途見当が必要であることが確認された。

- 9.2 勝俣地区部会長代理より東大地震研究所の共同利用の公募についての説明がなされた。
- 9.3 西上委員より、京大防災研究所の共同利用の公募についての説明がなされた。
- 9.4 勝俣地区部会長代理より、地震・火山噴火予知研究計画(案)についての現状説明がなされた。

#### 配付冊子等

- ・ DPRI Newsletter No.47
- ・ 平成 19 年度河川災害に関するシンポジウム
- ・ 防災研究フォーラム第 6 回シンポジウム「能登半島地震と新潟県中越沖地震から学ぶ」講演要旨集
- ・ 北海道地区自然災害科学資料センター報告 Vol.21
- ・ 京都大学防災研究所自然災害研究協議会パンフレット

(以上)